



市議会議員
上田由美子
☎ 68-2106
Fax 68-2146



参議院議員
井上さとし



前衆院議員
藤野保史

新学校給食センターに炊飯施設を

8月18日に開かれた市議会総合計画特別委員会で、第7次小矢部市総合計画「まちづくりの基本目標5」の「学校給食センター改築事業」について、上田由美子市議は「炊飯施設を最初から設けること」を求めました。

温かいご飯を子どもたちに

「上田市議」 新学校給食センターの基本設計について、炊飯設備を最初の10数年間は設置せず、その間炊飯業務を民間業者に委託する案が示されている。しかし、できるだけ温かいご飯を届けるために、学校に距離が近い施設で炊飯することができよう、新学校給食センターに炊飯設備を最初から設けることが必要である。

「教育総務課長」 新学校給食センターの整備計画については、「整備検討委員会」で令和5年3月に策定し、その中で、炊飯設備は10数年後設備変更時に追加することに決定した。また、現在使用しているプラスチック保温容器は温かさを保つので心配はない。

市産米を確実に子どもたちに

「上田市議」 小矢部市産の米のみを新学校給食センターで小矢部市了輪の宮島神社に「岩抱きのケヤキ」があります。小矢部市指定天然記念物になっています。

「境内には、自然石の露頭が多くあり、かつては心霊を招き祭祀行った聖地で古代、神社が発生する以前の磐境（いわさか心霊祭祀の霊域）と考えられている。後に社殿が作られるようになり、この磐境をそのままにして、後方に拝殿を建て、その奥に本殿を築いた。このように古い時代の磐境の姿を今に残しているのは、県内でも数少ない。」

（市教育委員会掲示板）



炊飯することで、地産地消を確実に実施できることでも有益である。

私は、8月9日、小矢部市が委託している炊飯業者を訪問し、学校給食に使われている米の供給の仕組みと炊飯及び配達の状態を聞いた。午前3時30分から炊飯し、小矢部市分の配達は午前8時30分に出発している。



同品種なら他市の米といっしょに炊飯

小矢部産の米はコシヒカリと富富富であるが、コメの品種が同じであれば、小矢部市以外の産地の米といっしょに炊飯しているということであった。

このため、100%小矢部産の米を小中学生に食べてもらうためには、新学校給食センターに最初から炊飯設備が必要だ。

米飯の地産地消も改善したい

「教育長」 新学校給食センターでは、安全なものを提供するが大前提であり、小矢部市として最低限のことを行いたい。米飯における地産地消も大事であるが、それについては、今後改善していきたい。

解説

市産の有機米を学校給食に利用する「よほどキメ」

有機米を学校給食に取り入れている例として、南砺市の城端と福野の学校で、年数回有機米の日があり、民間業者はその日の米は学校へ取りに行き、他の学校の分とは別に炊いて届けています。訪ねた炊飯業者によると、小矢部市でも有機米を学校給食に取り入れようとすれば、同じようにできるとのことでした。



学校給食の地産地消は

第7次小矢部市総合計画に明記

第7次総合計画において、「学校給食への地場産食材の活用拡大支援などを実施する」と議会答弁でも再確認しています。（産業建設部長 2019年12月議会）



岩抱きのケヤキ